

2023年
夏 号
Vol.37

幸義会だより

岡山東部脳神経外科

私と野球

岡山東部脳神経外科病院 病院事業管理者 寺井 義徳

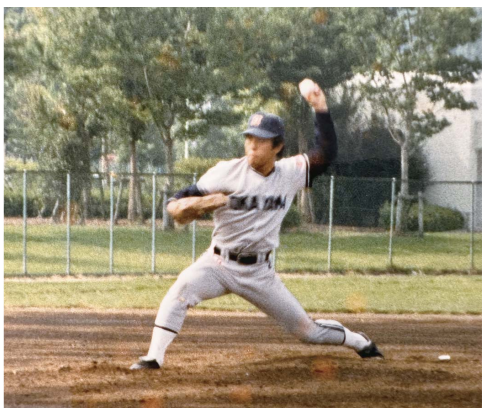


夏は野球の季節でもあります。今の私にうれしいことは、大谷翔平選手がホームランを打つことです。テレビのスイッチを入れ、BSのメジャーリーグ放送で、大谷選手がホームランを打つ場面にLIVEで遭遇できれば最高です。でも遭遇できるタイミングは稀です。たいていはすでに画面の右上、大谷36号とかあり、ああホームラン打ったんだと、後からリプレーで流れるのを見ます。それでもうれしい。気持ちが晴れます。

私と野球の出会いは小学生の時でした。当時（昭和40年代）サッカーは一般的ではなく、こどもはみんな野球をやりました。家の前の草はらで、ひとりが投げてひとりが打ち、ひとりが打球を追うという友達ふたりと私でした。レフト方向の黄色い花が咲く背の高い雑草の林の中に入ったボールはなかなか見つかりませんでした。私の父親は野球に興味がなかったようです。でも家の横の砂利道でキャッチボールをした記憶があります。私がキャッチボールをしようと頼んだのでしよう。左利きの私は左利き用のグラブを持っていましたが、右利き用のグラブはなかったはずなので、父親は素手だったのでしょうか。こわかった記憶が大半の父親ですが、こんなシーンもあったのでしょうか。一度だけ、巨人の二軍が旭川市営球場に来た時、見に連れて行ってくれたことがあります。父親は球場に入らず私だけで見ました。興味なかったのかお金がなかったのでしょうか。それから50年以上経った今、その球場はスタルヒン球場と名前を変え旭川の同じ場所に残っています。

中学では野球部に入りました。北海道教育大学旭川分校付属中学という学校なので、野球のユニフォームの胸にはFUCHUのエンブレムが貼ってあり、あこがれの先輩からもらったユニフォームで練習するのがとてもうれしかった。左利きということもあり一塁を守りました。中学2年の秋の新人戦には5番の打順に抜擢されましたが、打てず試合も負けました。

高校では野球をやらず、大学に入って準硬式野球部に入りました。それはそれは練習が厳しい部活で苦労しました。真夏の炎天下の強化練習でも水を飲んではいけないという時代でした。私は肩が弱く速い球は投げられませんが、コントロールが良かった。それに数少ない左利きということもあり、1年生の秋に、当時のキャプテンからピッチャーをやってみないかと言われ、うれしかった。一生懸命練習しました。すぐにOBの先生から、お前はかつて投げていると指摘されました。でもどうやって直したらよいのか言ってくれなかったのです。自分なりに考えました。サイドスローの要領で横から手首を柔らかく使って、肘を先に出す感覚でピッチャーと腕をしならせ投げる、これを



やっているうちにだんだんいい球が行くようになりました。腕を少し上げてスリークォーターにしたほうがコントロールが良かったので、これで練習を続けました。ピッチャーはフリーバッティングの投手から始まります。バッティング練習のための投手ですから打ちやすいストレートを真ん中に投げます。これでコントロールの良さをアピールしました。次はレギュラーバッティング、これは守備が定位置につき、試合形式のバッティング練習です。三振もあれば四球もあり、ヒットを打つとランナーとして塁に残り、走塁の練習をします。ここでの私は本気で打った。ストレートは外角低め、カーブは内角低めをひたすら狙います。遅い球が真ん中に寄れば打たれてしまいます。ここでのピッチングが認められれば、次は他校との練習試合で投げさせてもらえます。しかし、仲間との練習と他校相手の試合は全く違いました。マウンドの上では強い精神力が必要で、私にはそれがなかったのでしょうか。練習ではいいピッチングができていたのに試合ではできずマウンドを降りるとき、今まで努力して得た信頼が自分の中で音をたてて崩れる感覚でした。本心に音が聞こえたと思ったこともありましたが、結果がすべてでした。練習日ではない日にまでひとりで練習して、結果が良くないと次は投げさせてもらえませんでした。結果を出せなかったのはすべて自分の責任ですが、こんなに練習している自分のことをわかってくれる人が、この世の中にただひとりもないというのは、そのときの自分にとって耐え難いことでした。私は、母親に手紙を書きました。練習では良くても試合ではだめ、がんばって練習しているのに、返事の内容は覚えていませんが母親は返事をくれたことでしょうか。私は楽になりました。この世の中にひとり私のつらい気持ちを知ってくれているひとがいる。私は練習を続けました。そうするとだんだん試合でもいいピッチングができるようになりました。そして5年生の時に、私は準硬式野球部のエースとなりました。球の遅いピッチャーがどれだけ苦労するか、思い知った私の野球部でしたが、目標としていた西日本の大会初戦で6対0で完封勝利したり、数年前の先輩の時代に負けた金沢の強豪校に2回戦で勝って泣いたり、3回戦では9回裏2アウト満塁2ストライク3ボールのピンチで逆転サヨナラヒットを打たれて負けたり、いろいろな経験をさせていたいただきました。

明日、大谷翔平選手はホームランを打つでしょうか。打てば37号です。私はLIVEで見たい。その瞬間にテレビの前に居たいのです。

准看護師から正看護師へ

岡山東部脳神経外科病院 病棟看護師 光信美佐子



准看護師として働きだして34年がたちその間に結婚・出産をし縁あって当院へ就職して今年で19年目となりました。

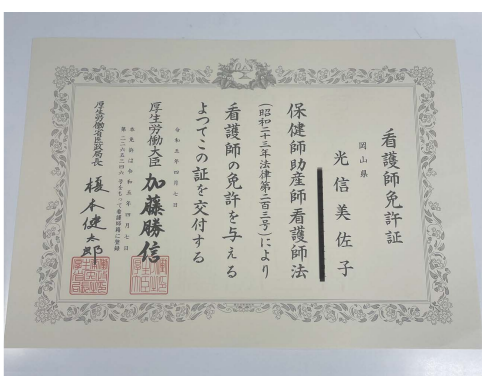
子供たちにも手があまりかからなくなった頃、看護協会から「准看護師から正看護師へ」という案内が届き以前から正看護師になりたいと思っていた私は夫に相談し快諾を得、滝澤理事長に相談した所、快く支援・応援してくださり2020年4月に穴吹医療大学（看護学科通信課程）に無事合格。2年間の学校生活が始まりました。それと同時に家庭・仕事・勉強の3足草鞋は予想以上に大変でした。

コロナ禍で病院実習が1度もなく全てiPADからの模擬実習を視聴しレポートを提出でした。年齢的に記憶力が衰え、覚えようにも覚えられず本当に大変な2年間でした。学校は卒業できましたが、第111回看護師国家試験は不合格!!さすがの私も落ち込みましたが、滝澤理事長のお言葉や同僚の励ましもともう1年頑張ってみる事にしました。下の子供の高校受験と重なり2人で勉強することができ、第112回看護師国家試験は手ごたえがあり無事合格することができました。

看護の基礎

を学んだこと

で知識をもつと身につけるから患者様へ質の高いケアが提供できるように頑張っていくと思っています。



研修医紹介

けいゆう病院研修医 森下 太喜



横浜にあるけいゆう病院というところから参りました初期研修医2年目の森下太喜と申します。11月7日から4週間、東部脳神経外科病院をはじめ、関連のリハビリ施設、診療所、訪問診療の研修をさせて頂きました。脳神経外科病院では、主に手術に入らせて頂き、訪問診療では、地域における中核病院から在宅への移行、他職種連携に実際に参加し現場のリアルを垣間見ることができました。来年度から消化器内科専攻医として勤務する際に、これらの貴重な体験を活かし丁寧な診療を心掛けたいと思いました。週末は、岡山城・後樂園、倉敷をはじめ、小豆島で紅葉狩り、高松でうどん、徳島でかずら橋を観光し、高知のひろめ市場で思う存分楽しめました。大変貴重な時間を過ごさせて頂き誠に感謝しています。

けいゆう病院研修医 横山 知明希



この度は貴重な研修の機会をいただきまして、誠にありがとうございます。けいゆう病院では経験できない手術や地域医療を学ぶことができ、大変勉強になりました。

おかげ様で苦手意識のあった脳梗塞について、理解を深める事ができました。お忙しい業務の合間を縫って講義や外来診療のご指導を賜りまして、心より感謝申し上げます。けいゆう病院へ帰った後も診療に携わる際、先生方にご教示いただいた事を活かしていきたいと思っています。

また、快適に研修を過ごすことができるよう、お気遣いくださった職員の皆様、毎日美味しいお食事を提供してくださった食堂スタッフの皆様にも重ねて感謝申し上げます。末筆ながら、貴院の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

けいゆう病院研修医 加藤 俊平



私はこの度、1ヶ月間の地域医療研修を受けさせて頂いたばかり、大変貴重な経験をする事ができました。

診療所において、地域医療を担う医師の方々から多くのことを学ぶことができました。地域に根ざした医療の重要性改めて認識することができたことは、私にとって非常に貴重な学びでした。

また岡山の名産品である美味しい果物、海の幸など、たくさん美味しい食べ物もご馳走になり、心身ともにリフレッシュすることができました。さらに、岡山の風景に癒やされたり、地元の方々と交流する機会も多く、岡山のことますます好きになりました。この度は、本当にありがとうございました。岡山の地域医療に携わる皆様には、ますます大きな活躍を期待しております。ありがとうございます。

けいゆう病院研修医 勝村 杏奈



神奈川県横浜市のけいゆう病院から参りました、初期研修医1年目の勝村杏奈と申します。出身は

神奈川県小田原市、出身大学は慶應義塾大学、大学では水泳部に所属していました。自己免疫疾患に興味があり、今後の進路はリウマチ内科を考えております。趣味は筋トレでしたが、妊娠を機にジムを退会することとなり物足りない日々を送っています。この度は研修を受け入れていただき、誠にありがとうございました。1ヶ月という短い期間でしたが、脳梗塞や慢性硬膜下血腫等、頻度の高い脳神経外科疾患を経験することができ大変勉強になりました。今回学んだことを忘れず、これからも日々精進してまいります。

通所リハビリテーションのご案内

岡山東部脳神経外科 東備クリニックにおいて介護保険の要支援1・2、要介護1・2・3・4・5の方を対象にした、リハビリテーション専門スタッフ（理学療法士や作業療法士）によるリハビリを受けることができる通所リハビリテーションを実施しています。コースは4コースに分かれていて、その方に合ったコースを選んでいただける様にしています。また介護保険の説明や通所リハビリに関する説明や見学も随時実施しておりますのでお気軽にお声かけください。

岡山東部脳神経外科通所リハビリテーション

担当 石田

電話番号 086-952-15250



新人紹介



医療事務 山形 恵

【趣味】野球観戦(カーブ)
【好きな芸能人】阿部寛

病棟看護師 小笠原あやの

【趣味】旅行、ゴルフ、バイク、格闘技
【好きな芸能人】マツコ・デラックス

医療事務 藤井 陽介

【趣味】将棋(自分で指したり、ネットで中継をみるのが好きです。)
【好きな芸能人】藤井聡太名人

病棟看護師 滝田 彰子

【趣味】旅行、映画鑑賞
【好きな芸能人】BTS

放射線技師 仁福 公輔

【趣味】春からトレーニングジムに通い始めました。
【好きな芸能人】オードリー

病棟看護助手 角三 紗桃

【趣味】映画鑑賞
【好きな芸能人】目黒蓮

「夏場の食中毒に注意しましょう」

岡山東部脳神経外科病院 栄養部

食中毒とは、細菌やウイルスなどの有害な物質がついた食べ物を食べる事で、下痢や腹痛、発熱、嘔吐などの症状が出る病気の事です。特に梅雨から9月頃にかけては高温多湿な状態が続く「腸管出血性大腸菌(O157等)」など細菌による食中毒が発生しやすい時期となります。調理や盛り付けの際にはきちんと手洗いを行い、食品は中まで十分加熱するようにして下さい。また、調理後の食品を室温で長時間放置しないよう注意しましょう。食中毒予防の三原則「つけない」「増やさない」「やっつける」を心掛け、食中毒を防ぎましょう。

